

1. 科目名 (単位数)	幼稚園教育実習指導 I (1 単位)		3. 科目番号	JNEL1431
2. 授業担当教員	荒木 由紀子			
4. 授業形態	講義や演習 (基本的な実習の内容、心構えと準備、日誌の記入等)、部分保育についてグループで討議し、計画と実践、反省を具体的に体験して実践的に学び合うことを重視します。	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	幼稚園教育実習は、幼稚園において幼児とともに生活する中で、保育者の援助を受けながら保育の実際を経験することによって、学習で身につけた知識や技術をより確実なものとし、幼稚園教育の理解を深める場となる機会である。 授業を通して保育者としての資質や能力、使命感について認識を深め、実習に臨む際の課題を明確にする。			
8. 学習目標	以下のような観点から学習し、身に付けたり理解を図ることによって、実習を行えるようにすることを学習目標とします。 1. 実習に必要な心構えと準備について理解し、行動に移すことができるようになる。 2. 保育者に求められる資質、態度、マナーを理解し、説明できるようになる。 3. 実習記録の意味と方法を理解し、記入できるようになる。 4. 指導計画の立て方を知り、保育者の具体的な指導の仕方を体験的に理解して説明できるようになる。 5. 実習に向けての自己課題を設け、実習に向けて準備をする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	部分保育の指導 (保育) 計画を作成し提出し、発表します。 模擬保育の体験を通して学んだことを中心に、教育実習に生かしていきたい保育者の心構え、幼児理解、環境の構成や援助などをまとめていきます。			
10. 教科書・参考書・教材	教科書 玉置哲淳・島田ミチコ監修『幼稚園教育実習』建帛社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018 年 東京福祉大学編『幼稚園教育実習の手引き』			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1 実習に必要な心構えや実習日誌の書き方などを理解し、教育実習の課題や目標を設定できる。 2 保育の内容や方法について理解を深め、部分保育の指導計画を作成できる。 ○評定の方法・・・授業態度、課題やレポートの提出等を総合して評価する。 授業態度 30%、 提出物・レポート 70%			
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教育の基本、幼児理解や環境の構成、一人一人の幼児への援助等について体験を通して具体的に理解を深めます。授業中のマナーや意欲を大切にしたいと思います。幼稚園教育実習 I に目標をもち、意欲的に臨めるようにしましょう。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	授業の概要、授業計画。 幼児期の特性、幼稚園教育の役割、教育の基本等について確認する。 幼稚園における教育実習の目的と内容	事前学習	『幼稚園教育実習の手引き』を読み、概要を理解して授業に臨む。	
		事後学習	『幼稚園教育実習の手引き』を読み直し、教育実習の基本事項を記述しまとめる。	
第 2 回	教育実習に臨む姿勢について 保育者としてのマナー (あいさつ、言葉づかい、電話のかけ方、服装、生活習慣、社会的習慣など)	事前学習	『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育保育要領解説』を読み、教育実習を行う際の基本的事項を確認する	
		事後学習	自身の教育実習への期待等を記入する。初めて実習園を訪問する際のあいさつや自己紹介の仕方について文章化しておく。	
第 3 回	実習記録の意義について、 実習日誌の内容や様式等について理解する。 実習の課題	事前学習	HP 等で自分が行く実習園の概要、特色、大まかな一日の流れ等を調べておき、実習日誌に記入できるようにしておく。	
		事後学習	自分の課題を文章化しておく。	
第 4 回	実習でであろう子どもたち・保育場面を知る ～DVD 等を視聴し、記録を書いてみる～	事前学習	子どもの発達の流れを理解しておく。	
		事後学習	授業中に提示された具体例をもとに生活の一部分の記録を書いてみる。	
第 5 回	観察実習・参加実習の意義、目的、方法 実習日誌の書き方 (1) 記録の取り方との表記の仕方	事前学習	第 4 回までで学んだことを基にして、更に内容を深める。	
		事後学習	他者の発表の良いところを記録しておく。	
第 6 回	実習日誌の書き方 (2) 一日の反省とまとめ方と表記の仕方	事前学習	実習記録を書く上での疑問や課題を口頭で発表できるようにしておく。	
		事後学習	仮の実習記録を修正し、清書して提出する。(レポート)	
第 7 回	部分実習の意義、目的、方法 部分実習の活動選定の視点と指導上の工夫	事前学習	幼稚園や認定こども園の一日の流れを把握し、部分保育の内容にどのようなものがある	

	模擬保育の活動について協議と発表 (グループ活動または個人活動)		か調べておく。
		事後学習	グループ(個人)で取り組みたい模擬保育の活動(対象学年も)に関する資料を教科書や様々な文献、情報機器から探す。
第8回	部分実習の指導計画の立て方(ねらいや内容の設定の仕方) 模擬保育のねらいや内容の設定、発表 (グループ活動または個人活動)	事前学習	教科書の該当するページを読み、指導計画を作成する上での疑問や課題を口頭で発表できるようにしておく
		事後学習	グループ(個人)で協議した結果(ねらいや内容)をメモ書きしておく。
第9回	部分実習の指導計画の立て方(環境構成や援助・留意点) 指模擬保育の環境構成と予想される幼児の活動 保育者の援助・留意点などの発表(グループ活動または個人活動)	事前学習	模擬保育に必要な素材や用具、場や空間を考えておく。
		事後学習	指導計画に環境の構成、予想される幼児の活動、保育者の援助・留意点を検討し、記入して完成させ、指定日までに提出する。
第10回	模擬保育(1) 満3歳児対象の実施と観察・記録 模擬保育(1)の協議と反省評価	事前学習	模擬保育(1)の提案者は指導計画を指定日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。
		事後学習	模擬保育(1)の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく
第11回	模擬保育(2) 3歳児対象の実施と観察・記録 模擬保育(2)の協議と反省評価	事前学習	模擬保育(2)の提案者は指導計画を指定日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。
		事後学習	模擬保育(2)の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく。
第12回	模擬保育(3) 4歳児対象の実施と観察・記録 模擬保育(3) 協議と反省評価	事前学習	模擬保育(3)の提案者は指導計画を指定日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく。
		事後学習	模擬保育(3)の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく
第13回	模擬保育(4) 5歳児対象の実施と観察・記録 模擬保育(4) 協議と反省評価	事前学習	模擬保育(4)の提案者は指導計画を指定日までに提出し、授業前までに教材や用具等を準備しておく
		事後学習	模擬保育(4)の記録を整理して、次回に提出できるようにしておく
第14回	模擬保育を通して学んだこと、幼稚園教育実習Ⅰの目標や課題についての発表	事前学習	自分の目標や課題について纏め、発表出来るようにしておく
		事後学習	模擬保育を通して学んだことを纏めておく
第15回	実習園でのオリエンテーション、実習準備事項の確認 実習中の連絡・報告について、巡回指導について、実習事後指導、礼状の書き方について	事前学習	今までの学習を整理しておく。
		事後学習	第10～14回のまとめのレポートに、幼稚園教育実習Ⅰの課題や目標を記入及び礼状の下書きを行い、期末レポートとして提出する。(レポート)